

建物について

2020年東京オリンピック・メイン・スタジアムの設計者で、日本を代表する世界的建築家隈研吾氏の設計です。

外部と一体化した全面ガラス張りの本館は、四季折々の風景を写し出し、那須の自然の豊かさと歴史を象徴します。

入り口からの石畳やテラス、そして、本館の床には地場産の芦野石が使われています。外部からの光を和らげる藁左官のパーティションや烏山和紙の襖など、那須の歴史を物語るにふさわしい和のテートを醸し出しています。

- 陣屋裏門(複製)
実物は芦野の上野町にある。
- 旧芦野小学校の石柱(複製)
勝海舟の書で碑文が刻まれている。現物は旧芦野小学校の玄関正面を飾っていた。



- 土蔵
江戸時代から存在する、旧山田家のもの。
- 展示館
従来の展示室を反転したような解放感にこだわっている



- 間仕切り：カズラ(御殿山のもの)
- 天井・壁：藁左官、烏山和紙
- 床：芦野石
- 受付前椅子の座面：木毛セメント



設計	隈研吾建築都市設計事務所
施工	川田工業
敷地面積	3,186.16 m ²
建設面積	579.12 m ²
延床面積	458.17 m ²
階数	1階
構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
開館	2000年10月12日

ご利用のご案内

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合はその翌日)
年末・年始 (12月28日～1月4日)
臨時休館 (展示入れ替え期間)

観覧料 大人200円 団体100円(20名以上)
※中学生以下は無料となります。
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介添者は、手帳のご提示で無料となります。
※栃木県内の美術館・博物館における共通割引制度(M割)を利用して観覧料が半額となります。

アクセス



- 公共交通機関で・・・東北本線「黒田原駅」下車、東野交通(伊王野線) 上町(那須町)行「芦野仲町」下車、徒歩5分
※バスの時刻表は、東野交通HPでご確認ください。
- 車で・・・東北自動車道「那須IC」または「白河IC」より約30分
- レンタカーで・・・東北新幹線「新白河駅」より 約30分、「那須塩原駅」より 約40分

那須歴史探訪館

〒329-3443 栃木県那須郡那須町大字芦野 2893 番地
TEL.0287-74-7007 FAX.0287-74-7016
E-mail: rekishi@town.nasu.lg.jp

探訪館のご案内

ここにあるのは

“那須町の歴史”

です。

那須歴史探訪館は、平成12年(2000年)10月に那須町の歴史資料館として芦野の御殿山の麓(通称根古屋)に開館いたしました。

約一万年前から人が住み始めた那須町は、古代東山道により京とつながります。その後、鎌倉街道、奥州街道など、道の移り変わりとともに発展してきた“那須の歴史”がここにあります。

豊かな自然に生まれ培われてきた那須町の歴史を「道」をテーマに表現しています。

ご来館記念スタンプ



過去の
テーマ展
企画展



那須の
獅子舞・神楽



懐かしの昭和



雛のつるし
飾り



オーディオの
歴史

主な収蔵品

- ・芦野家に関する資料
- ・「おくのほそみち」に関する資料
- ・石器、縄文土器、弥生土器
- ・明治時代からの教科書他



那須に関連した特徴的な品々が並びます。
※展示内容は入れ替えにより、変わる場合があります。

那須町
トピックスギャラリー

テーマ展・企画展コーナー

那須町の
通史

道の変遷と見る
那須町

有史以前から現代に至るまでの歴史を実物やパネルで展示。

原始・古代

中世

近世

近代・現代



＜原始・古代＞大むかしの那須町(旧石器時代～古墳時代)

那須町の歴史は、約1万年前の人々の生活の痕跡が残る^{にがしんろ}迹室遺跡から始まります。縄文遺跡は早期から晩期までのものが、町内の広い範囲に分布しています。弥生時代や古墳時代の遺跡を含めると、その数は300を数え、県内有数の遺跡数を誇ります。舟渡古墳群には、関東地方最北部の前方後円墳が確認されています。



＜古代～中世＞最新文化、仏教(奈良時代～平安時代)

律令制度が整い中央政府の力が全国に及ぶようになる頃、那須国は下毛野国の一郡になります。^{みやこ}京と陸奥国を結ぶ東山道が伊王野付近を通ります。東山道を通じて、京の文化や技術がもたらされ、仏教も伝えられました。堂平仏堂跡から「誕生釈迦仏立像」や「金銅薬師如来像」が出土しました。



那須温泉の歴史

舒明12(640)年、白鹿を追う狩人の前に、白髪の老翁が現れ「我は温泉の神なり、・・・温泉は万病を癒す効あり、・・・万民の病苦を救うべし。」と言い残し、姿を消しました。狩人は、信託の如く温泉を開き温泉の神をまつりました。鹿の湯・湯泉神社のはじまりといわれています。



芭蕉と那須町

元禄2(1689)年、松尾芭蕉が「おくのほそ道」の途上、那須町に立ち寄ります。殺生石では「石の香や夏草赤く露暑し」、芦野では尊敬する西行も訪ねた遊行柳で「田一枚植えて立ち去る柳哉」と詠んでいます。那須歴史探訪館では、毎年、芭蕉が訪ねた時期に合わせて、テーマ展「芭蕉と那須町」を開催しています。

＜鉄道開通＞鉄道と那須町(明治時代)

道の移り変わりとともに那須町は変遷、発展してきました。明治に入り原街道が国道となり、鉄道が敷かれました。黒田原には日本でも有数の馬市が開かれ、那須駒が全国に送り出されました。東北線は輸送量増大とスピード化のために路線変更工事が行われ、大正9(1920)年に現在の路線が完成します。



＜奥州道中＞奥州道中芦野宿(江戸時代)

江戸時代に入ると、芦野は交代寄合旗本芦野氏の城下町として、また、奥州道中の整備が進むと、宿場町として発展していきます。参勤交代や物資の流通などでにぎわいを見せます。当時、芦野宿には本陣・脇本陣が各1軒、旅籠は25軒を数えたといわれています。



＜鎌倉街道＞公方奉公の道(鎌倉時代)

鎌倉時代には「吾妻鏡」に葦野地頭の名が出てきます。芦野氏館跡は当時の武士の館の遺構を残しています。鎌倉街道は、「いざ鎌倉」の軍道であり、御家人が番役を務めるための道、東国の武士が鎌倉公方奉公の道として発展してきました。芦野を通った往古街道や東山道が鎌倉街道であると考えられています。



時代とともに変化する道と那須町をジオラマとパネルで紹介。
新国道と鉄道開通
奥州街道・原街道
鎌倉街道
東山道

←WC

那須町の歴史年表
奥州道中芦野宿分限延絵図

受付

エントランス



書籍・探訪館限定クリアファイル等販売中です。
おみやげや見学の記念にぜひどうぞ。

那須の歴史や見所の情報を手に入れることができます。
壁にかかったモニターでは、那須町に伝わる昔ばなしのアニメーションがご覧いただけます。

館 内 の ご 案 内

出入口

モニター